

# 2022年度 横浜商科大学地域貢献協働事業 研究成果の概要

研究課題名 2022年度の申請事業と成果報告

研究代表者 教授 佐々 徹

## 1. 2022年度に申請した事業

報告者が2022年度に申請した地域貢献協働事業は、「授業一体型プロジェクト」が3件、「個人又は共同プロジェクト」が1件である。

### ①授業一体型プロジェクト

- ・野毛まちなかキャンパス「横浜・野毛の商いと文化」
- ・中華街まちなかキャンパス「横浜中華街の世界」
- ・鶴見コンシェルジュ養成講座

### ②個人又は共同プロジェクト

- ・本学と大口通商店街協同組合との包括連携協定（「商店街活性化と地域振興における連携に関する協定」）に基づく協働プロジェクト  
本学学生の発案によって始まった「ハロウィンだよ！ おおぐちチビっ子フェスティバル」の企画・運営

上記4件の申請事業のうち、「個人又は共同プロジェクト」の「ハロウィンだよ！ おおぐちチビっ子フェスティバル」については、協働相手である大口通商店街協同組合との協議により、2020年度、21年度に続いて22年度も中止とすることになった。

## 2. 野毛まちなかキャンパス「横浜・野毛の商いと文化」

### （1）事業実施の経緯

2004年度より、本学と野毛地区街づくり会（野毛地区の振興を目的に、野毛商店街協同組合、野毛飲食業協同組合、および野毛地区の町内会が連合して結成した組織）で商学連携による商店街活性化事業に取り組む中で、街づくり会から野毛地区内に本学のサテライトキャンパスを開設してほしいという依頼を受けた。しかし、両者で検討を重ねた結果、サテライトキャンパスの開設は難しいという結論に至り、その代案として「野毛まちなかキャンパス」が構想され、2007年度にスタートした。

当初は本学学生と一般社会人を対象に開講されたが、翌2008年度からは「横浜市内大学間単位互換履修制度」の対象科目となり、市内の同制度参加大学の学生たちにも開放され、現在に至っている。

野毛地区は市内でも有数の集客力を誇る飲食店街であるとともに、それに関連した様々な大衆芸能の発信地でもある。それゆえ、観光関連の学科を擁する本学にとっては重要な研究・学習フィールドの1つとなり、まちづくりの学習にとって非常に有意義な教材を提供してくれる街であることから、「まちなかキャンパス」をはじめとする連携事業が今日でも継続している。

### （2）本事業の目的

本事業の目的は、以下に記すとおりである。

- ①横浜市内の大学に通う学生に対して、元町、中華街、伊勢佐木町と並ぶ横浜市中心市街地の代表的な商業集積地である野毛地区への関心を喚起する。
- ②次の時代を担う学生たちの野毛地区に対する理解を深め、若い世代の力をまちづくりに取り込むための基盤を構築する。

- ③野毛地区と市内大学に通う学生たちとの相互交流を進めて次の時代の「野毛ファン」をつくり、今後の野毛地区のコミュニティや商業の活性化につなげていく。
- ④野毛地区内にキャンパス（教室）を置くことにより（野毛地区センター、横浜中央図書館、横浜能楽堂、野毛 Hana＊Hana、横浜にぎわい座、横浜市立野毛山動物園、成田山横浜別院などを教室として利用）、学生たちが街の息吹を実感しながら学習できるという、大学内ではできない講義を開発・提供し、本学ならびに市内各大学における講義バラエティの充実を推進する。
- ⑤実施する講義を一般社会人にも開放し、学生たちと社会人が相互に刺激を受けながら学習していくという新しい場を野毛地区に創り、本学ならびに野毛の街のPRや情報発信などにも活用する。
- ⑥野毛地区と横浜中華街（2009年度に「中華街まちなかキャンパス」を開講）はどちらも横浜開港とともに発展してきた街であるが、両者のアイデンティティはまったく異なり、野毛地区は横浜における日本人街の象徴、中華街は異国情緒の象徴となっている。市内において最もシンボリックな2つの街で「まちなかキャンパス」を開講することにより、本学学生をはじめとする市内大学に通う学生たちや市民の都市・横浜に対する理解をいっそう深化させることが期待できる。
- ⑦上記の①～⑥により、横浜市内で唯一、商学部をもつ大学である本学の使命を果たすとともに、その存在意義・存在価値を広くアピールしていく。

### （3）事業の概要

野毛地区をテーマにした大学生（学部学生）向けの講義「野毛まちなかキャンパス『横浜・野毛の商いと文化』」を企画開発・運営する。各回の授業の担当講師には、同地区について調査・研究を行っている人びと、同地区の地域再生や商業活性化に実際に携わっている人びと、同地区で育まれた大衆芸能にかかわるアーティストなどを登用する。

本講義は半期2単位科目（全14回：学生向けイントロダクション講義1回、野毛まちなかキャンパス13回）とし、秋学期に開講する（春学期には「中華街まちなかキャンパス」が開講している）。また、「横浜市内大学間単位互換履修制度」の対象講義とし、同制度に参加している市内12大学（本学を含む）の学生たちも履修できるようにする。

講義全体のコーディネート、授業の運営・進行、および成績評価については、佐々徹（本学教授）が担当する。講義は野毛地区内の施設をキャンパス（教室）として実施し、学生たちが実際に野毛の街の文化や雰囲気を実感しながら学習できるようにする。そして、一般社会人にも公開し、学生たちと社会人が1つの教室で交流しながら学習できるようにする。

その他、本事業の詳細については以下のとおりである。

#### ①実施主体

- ・主催：横浜商科大学、野毛地区振興事業協同組合、野毛地区街づくり会
- ・共催：横浜にぎわい座

#### ②受講対象者

- ・本学学生（平成27年度入学者より全学科・2年次生以上。26年度以前の入学者は1年次より履修可能）
- ・横浜市内にキャンパスを構える「横浜市内大学間単位互換履修制度」参加大学に通う学部学生
- ・野毛地区に関心をもつ一般社会人

#### ③募集定員

- ・学生（本学および単位互換大学学生）：20名
- ・一般社会人：15名

#### ④本学学生履修者の単位の取扱い

- ・観光マネジメント学科「専門プログラム」（2015カリキュラム）および「学科専門科目」（2020カリキュラム）の2単位（2年次配当）となる（但し、他学科学生も履修可能）。なお、平成26年度以前の入学者については、「多角的思考力育成科目群」の2単位となる。

#### ⑤本学教職員の役割

- ・プロジェクトの企画・運営

- ・カリキュラムのコーディネート
- ・授業の進行・運営
- ・学生履修者の成績評価
- ・社会人受講者の募集・案内・受付
- ・講義会場の設営・片づけ

#### ⑥本学学生の役割

- ・授業への参加・単位の修得（2019年度履修者：24名、2018年度履修者：19名、2017年度履修者：11名。2020年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により休講。2021年度はオンライン講義で実施し、履修者71名）
- ・授業評価
- ・講義会場の設営・片づけの補助

#### ⑦地域貢献協働事業協働事業者（野毛地区街づくり会）の役割

- ・大学と共同でのカリキュラム作成
- ・講師の紹介および手配、講師の担当
- ・会場となる施設の優先利用の手配、一部会場の無償提供
- ・講義で使用する備品等の無償提供
- ・有料見学施設の無償開放
- ・講座のPR（募集要項の配布）
- ・野毛地区内の店舗経営者、住民、その他関係者への受講の勧誘
- ・マスコミ等への情報提供と取材対応
- ・各種講座運営業務の補助

### （４）実施内容の報告

コロナ禍のため2020年度は中止、21年度はオンライン開催となったが、今年度はコロナ禍以前のように、野毛地区内の施設を使用して対面形式で実施した。

ただし、感染者数が高止まりしているなどコロナ禍には終息の兆しがなく、依然として不安定な状況が続いていたため、講座を全8回（コロナ禍前は14回）に縮減し、定員を学生・社会人あわせて30名程度以内に限定して開講した。

昨年度は、社会人については公募を取りやめ、本講座の協力者、支援者、および野毛地区関係者・関係機関の方々、それらの方々の直接の紹介者のみに参加を呼び掛けて実施したが、今年度は従来どおりに公募を行った。しかし、定員を学生・社会人あわせて30名程度以内に限定するため、広報の規模は縮小し、社会人の募集要項を従来は300通強発送しているが、今年度は180通程度に絞って発送した。

また、感染が再び急拡大するなど、コロナ禍の状況が悪化した場合にはオンラインへの切り替えや社会人受講の受入れ停止とすることを想定せざるを得なかったため、今年度は「ウィズコロナ・トライアル講座」とし、受講料の徴収は行わなかった。なお、オンラインでのトライアル講座となった昨年度も、受講料は徴収していない。

学生の受講に関しては、野毛地区施設内での対面実施に戻るため、教室定員の制約から履修者を20名以内に制限した。しかし、履修希望者は17名であったため、選抜や抽選は行なわなかった。ちなみに、内訳は4年生が8名、3年生が4名、2年生が5名である。

#### ①2022年度「野毛まちなかキャンパス」プログラム

「野毛まちなかキャンパス」の講義は1回90分で行なったが、学生には毎回、授業時間10分に相当する課題を出し、作成・提出させている。

- ・第1回 11月12日（土）10：30～12：00  
野毛山動物園の歴史・現在  
〔講師〕横浜市立野毛山動物園 園長 田村 理恵  
〔会場〕横浜市立野毛山動物園

- ・ 第2回 11月14日(月) 18:00~19:30  
横浜の発展と蚕の卵の輸出～世界遺産の建物に残された古記録から～  
〔講師〕横浜開港資料館 館長 西川 武臣  
〔会場〕野毛 Hana \* Hana
- ・ 第3回 11月21日(月) 18:00~19:30  
横浜成田山～黒船と鉄道開業～  
〔講師〕野毛山不動尊・横浜成田山 顧問 加藤 明彦  
〔会場〕野毛山不動尊・横浜成田山 本堂
- ・ 第4回 11月28日(月) 18:00~19:30  
伊勢神宮の創祀と疫病  
〔講師〕伊勢山皇大神宮 宮司 阿久津 裕司  
〔会場〕伊勢山皇大神宮 記念館 地下1階「参集殿」
- ・ 第5回 12月3日(土) 10:00~12:00  
鉄道開業150年～桜木町(初代横浜駅)周辺を歩く～  
〔講師〕NPO 法人 横浜シティガイド協会  
〔集合場所〕JR 桜木町駅 南改札
- ・ 第6回 12月5日(月) 18:00~19:30  
横浜市民ギャラリーの現在(いま)と未来(これから)  
～横浜市民ギャラリーの沿革と普段は見られない「からっぽ」の展示室見学&トーク～  
〔講師〕横浜市民ギャラリー 館長 森井 健太郎/貸館担当 小松 大和  
〔会場〕横浜市民ギャラリー
- ・ 第7回 12月19日(月) 18:00~19:30  
横浜能楽堂探訪～約150年の歴史を持つ関東最古の能舞台～  
〔講師〕横浜能楽堂 プロデューサー 大瀧 誠之 遠山 香織  
〔会場〕横浜能楽堂
- ・ 第8回 1月16日(月) 18:00~19:30  
野毛の町の演芸場～20年の歩み～  
〔講師〕横浜にぎわい座 事業担当 田谷 祐紀  
〔会場〕横浜にぎわい座 芸能ホール

## ②学生対象講義

講師：佐々 徹

- ・ 10月3日  
イントロダクション授業  
16:50~18:30 (対面・商大223教室)
- ・ 10月17日  
横浜・野毛のまちを知る①  
16:50~18:30 (対面・商大223教室)
- ・ 10月24日  
横浜・野毛のまちを知る②  
16:50~18:30 (対面・商大223教室)
- ・ 11月7日  
横浜・野毛のまちを知る③  
16:50~18:30 (対面・商大223教室)
- ・ 1月23日  
まちなかキャンパスの振り返りと学期末課題の発表  
16:50~18:30 (対面・商大223教室)
- ・ 1月30日  
野毛のまちの強み、弱み、地域資源を考える  
16:50~18:30 (対面・商大223教室)

### ③2022年度「野毛まちなかキャンパス」社会人受講者数

- ・第1回 11月12日：4名
- ・第2回 11月14日：7名
- ・第3回 11月21日：9名
- ・第4回 11月28日：11名
- ・第5回 12月3日：4名
- ・第6回 12月5日：2名
- ・第7回 12月19日：2名
- ・第8回 1月16日：3名

## 3. 中華街まちなかキャンパス「横浜中華街の世界」

### (1) 事業実施の経緯

2009年度に、本学から横浜市に提供する「横浜開港150周年記念事業」として、本学学生と一般社会人を対象に開講された。翌2010年度からは「横浜市内大学間単位互換履修制度」の対象科目となり、市内の同制度参加大学の学生たちにも開放され、現在に至っている。

①横浜中華街は市内で最も高い集客力を誇る観光地であるので、観光関連の学科を擁する本学にとっては非常に重要な研究・学習フィールドの1つである、②日本国内では最も大規模な中国人街（華僑社会）でもあり、こうした街について深く学習する講義は留学生たちの関心も喚起することができる、とのことからスタートした。

### (2) 本事業の目的

本事業の目的は、以下に記すとおりである。

- ①本学ならびに横浜市内の大学に通う学生（市内他大学の学生への開放は2010年度から）に対して、元町、伊勢佐木町、野毛と並ぶ横浜市中心市街地の代表的な商業集積地である横浜中華街への関心を喚起する。
- ②次の時代を担う学生たちの横浜中華街に対する理解を深め、若い世代の力をまちづくりに取り込むための基盤を構築する。
- ③横浜中華街の人びとと市内大学に通う学生たちとの相互交流を進めて次の時代の「中華街ファン」をつくり、今後の中華街エリアのコミュニティや商業の活性化につなげていく。
- ④横浜中華街内にキャンパス（教室）を置くことにより（横浜華僑婦女会館、横濱華僑總會禮堂などを教室として利用）、学生たちが中華街独特の文化や雰囲気を実感しながら学習できるという、大学内ではできない講義を開発・提供し、本学ならびに市内各大学における講義バラエティの充実を推進する。
- ⑤実施する講義を一般社会人にも開放し、学生たちと社会人とが相互に刺激を受けながら学習していくという場を野毛エリア（2007年度より、本学と野毛地区街づくり会との共催による「野毛まちなかキャンパス」を開講）と並んで横浜中華街にも創り、本学ならびに横浜中華街のPRや情報発信などにも活用する。
- ⑥すでに「野毛まちなかキャンパス」を立ち上げた野毛エリアと横浜中華街はどちらも横浜開港とともに発展してきた街であるが、両者のアイデンティティはまったく異なり、野毛エリアは横浜における日本人街の象徴、中華街は異国情緒の象徴となっている。市内において最もシンボリックな2つの街で「まちなかキャンパス」を開講することにより、本学学生をはじめとする市内大学に通う学生たちや市民の都市・横浜に対する理解をいっそう深化させることが期待できる。
- ⑦上記の①～⑥により、横浜市内で唯一、商学部をもつ大学である本学の使命を果たすとともに、その存在意義・存在価値を広くアピールしていく。

### (3) 事業の概要

横浜中華街をテーマにした大学生（学部学生）向けの講義「中華街まちなかキャンパス『横浜中華街の世界』」を企画開発・運営する。各回の授業の担当講師は、基本的には横浜中華街で生まれ育った華僑の人びと

とし、中華街について調査・研究を行っている人びと、中華街の地域再生や商業活性化に実際に携わっている人びと、伝統芸能を伝えるアーティストなどを登用する。

本講義は半期2単位科目（全14回：学生向けイントロダクション講義1回、中華街まちなかキャンパス13回）とし、春学期に開講する（秋学期には「野毛まちなかキャンパス」が開講する）。また、「横浜市内大学間単位互換履修制度」の対象講義とし、同制度に参加している市内12大学（本学を含む）の学生たちも履修できるようにする。

講義全体のコーディネート、授業の運営・進行については佐々徹（本学教授）と根本英明（元・本学講師）が、成績評価については佐々が担当する。講義は横浜中華街内の施設をキャンパス（教室）として実施し、学生たちが実際に中華街独特の文化や雰囲気を実感しながら学習できるようにする。そして、一般社会人にも公開し、学生たちと社会人が1つの教室で交流しながら学習できるようにする。

その他、本事業の詳細については以下のとおりである。

### ①実施主体

- ・主催：横浜商科大学
- ・後援：横浜中華街「街づくり」団体連合協議会

### ②受講対象者

- ・本学学生（平成27年度入学者より全学科・2年次生以上。26年度以前の入学者は1年次より履修可能）
- ・横浜市内にキャンパスを構える「横浜市内大学間単位互換履修制度」参加大学に通う学部学生
- ・横浜中華街に関心をもつ一般社会人

### ③募集定員

- ・学生（本学および単位互換大学学生）：20名
- ・一般社会人：15名

### ④本学学生履修者の単位の取扱い

- ・観光マネジメント学科「専門プログラム」（2015カリキュラム）および「学科専門科目」（2020カリキュラム）の2単位（2年次配当）となる（但し、他学科学生も履修可能）。なお、平成26年度以前の入学者については、「多角的思考力育成科目群」の2単位となる。

### ⑤本学教職員の役割

- ・プロジェクトの企画・運営
- ・カリキュラムのコーディネート
- ・授業の進行・運営
- ・学生履修者の成績評価
- ・社会人受講者の募集・案内・受付
- ・講義会場の設営・片づけ

### ⑥本学学生の役割

- ・授業への参加・単位の修得（2019年度履修者：19名、2018年度履修者：9名、2017年度履修者：16名。2020年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により休講。2021年度はオンライン講義で実施し、履修者60名）
- ・授業評価
- ・講義会場の設営・片づけの補助

### ⑦地域貢献協働事業協働事業者（横浜中華街「街づくり」団体連合協議会）の役割

- ・大学と共同でのカリキュラム作成
- ・講師の紹介および手配、講師の担当
- ・会場となる施設の優先利用の手配
- ・講義で使用する備品等の無償提供
- ・講座のPR（募集要項の配布）
- ・中華街内の店舗経営者、住民、その他関係者への受講の勧誘

- ・マスコミ等への情報提供と取材対応
- ・各種講座運營業務の補助

#### (4) 実施内容の報告

コロナ禍のため2020年度は中止、21年度はオンライン開催となったが、今年度はコロナ禍以前のように、横浜中華街内の施設（横浜華僑婦女会館）を使用して対面形式で実施した。

ただし、感染者数が高止まりしているなどコロナ禍には終息の兆しがなく、依然として不安定な状況が続いていたため、講座を全8回（コロナ禍前は14回）に縮減し、定員を学生・社会人あわせて30名程度以内に限定して開講した。

昨年度は、社会人については公募を取りやめ、本講座の協力者、支援者、および中華街関係者・関係機関の方々、それらの方々の直接の紹介者のみに参加を呼び掛けて実施したが、今年度は従来どおりに公募を行った。しかし、定員を学生・社会人あわせて30名程度以内に限定するため、広報の規模は縮小し、社会人の募集要項を従来は300通強発送しているが、今年度は180通程度に絞って発送した。

また、感染が再び急拡大するなど、コロナ禍の状況が悪化した場合にはオンラインへの切り替えや社会人受講の受入れ停止とすることを想定せざるを得なかったため、今年度は「ウィズコロナ・トライアル講座」とし、受講料の徴収は行わなかった。なお、オンラインでのトライアル講座となった昨年度も、受講料は徴収していない。

学生の受講に関しては、中華街施設内での対面実施に戻るため、教室定員の制約から履修者を20名以内に制限した。しかし、履修希望者は19名であったため、選抜や抽選は行なわなかった。ちなみに、内訳は4年生が12名、3年生が2名、2年生が5名である。

##### ①2022年度「中華街まちなかキャンパス」プログラム

「中華街まちなかキャンパス」の講義は1回90分で行なったが、学生には毎回、授業時間10分に相当する課題を出し、作成・提出させている。講義時間は全回、18:00~19:30である。

- ・第1回 5月9日  
横浜中華街の現状とこれから  
【講師】高橋 伸昌〔横浜中華街発展会協同組合 理事長／江戸清 代表取締役会長〕
- ・第2回 5月16日  
写真で読み解く横浜中華街の生業  
【講師】伊藤 泉美〔横浜ユーラシア文化館 副館長〕
- ・第3回 5月23日  
世界のチャイナタウンと拡大する華人ネットワーク  
【講師】陳 天璽〔早稲田大学国際教養学部 教授〕
- ・第4回 5月30日  
横浜大空襲と中華街  
【講師】増田 和子〔主婦〕／蔡 金仙〔一石屋酒店〕
- ・第5回 6月6日  
中国舞踊による伝統文化紹介  
【講師】区 愛玲〔中国舞踊家〕
- ・第6回 6月13日  
中華街育ちのZ世代が伝える—私たちが地球を救うためにすべきこと  
【講師】露木 志奈〔環境活動家／起業家〕
- ・第7回 6月20日  
日本のラグビー発祥地と横浜中華街  
【講師】長井 勉〔神奈川県ラグビー協会事業部会長／認証アーキビスト〕
- ・第8回 6月27日  
横浜中華街の料理の変遷  
【講師】曾 徳深〔横浜華僑総会 顧問／菜香グループ 代表〕

## ②学生対象講義

講師：根本 英明〔中華街まちなかキャンパス・コーディネータ〕、佐々 徹

- ・ 4月11日  
イントロダクション授業  
16:50～18:30（対面・商大 223 教室）
- ・ 4月18日  
横浜中華街の歩み  
16:50～18:30（対面・商大 223 教室）
- ・ 4月25日  
横浜中華街のいま  
16:50～18:30（対面・商大 223 教室）
- ・ 7月4日  
「中華街まちなかキャンパス」の振り返り  
16:50～18:30（対面・商大 122 教室）
- ・ 7月11日  
横浜中華街への提案をしよう！  
16:50～18:30（対面・商大 122 教室）
- ・ 7月18日  
学期末課題に取り組もう！（筆記試験のかわりの課題）  
16:50～18:30（対面・商大 122 教室）

## ③2022 年度「中華街まちなかキャンパス」社会人受講者数

- ・ 第1回 5月9日：14名
- ・ 第2回 5月16日：13名
- ・ 第3回 5月23日：11名
- ・ 第4回 5月30日：12名
- ・ 第5回 6月6日：8名
- ・ 第6回 6月13日：11名
- ・ 第7回 6月20日：12名
- ・ 第8回 6月27日：12名

## 4. 鶴見コンシェルジュ養成講座

### （1）事業実施の経緯

本学と鶴見区との包括連携協定に基づき、平成27年9月に、鶴見区制90周年を記念した新規連携事業として、鶴見の観光振興や観光まちづくりの担い手育成を目的とする「『鶴見コンシェルジュ』資格認定と養成講座の実施」を本学より提案した。その後、鶴見区役所および区内の市民活動団体（鶴見区文化協会、鶴見歴史の会、鶴見みどころガイドの会）と実施に向けた交渉や議論を重ね、実施体制が整ったため、平成30年4月より本プロジェクトを本格的に開始することとなった。

本プロジェクトの中でも最も中核的な事業である「鶴見コンシェルジュ養成講座」は、本学のまちなかキャンパスの仕組みとノウハウを活用し、本学主導で企画・運営する。

資格認定については、本学、鶴見区役所、鶴見区文化協会、鶴見歴史の会、鶴見みどころガイドの会が共同で立ち上げた「鶴見コンシェルジュ養成講座実行委員会」において、今後も実現に向けて審議を継続する。なお、将来の資格認定に向けた第一歩として、「鶴見コンシェルジュ養成講座」に3分の2以上参加した受講者に対し、修了認定証の授与を行うこととした。



## (2) 地域貢献事業としての目的

- ①鶴見区の観光案内やツアープランの企画・運営、観光によるまちづくりを担う人材の発掘・育成とともに、そうした人材の質を高めるための学び場を整え、区の観光発展やまちづくりの推進に寄与する。
- ②養成講座の開催によって鶴見区の観光やまちづくりに対する区民ひいては横浜市民の認知度や関心を高め、鶴見のブランドイメージの向上を図る。
- ③養成講座の受講を通じて「鶴見ファン」となる人びとを増加させ、彼らによって区の魅力や観光資源に関する情報が拡散されることを目指す。

## (3) 授業として開設する意義

- ①鶴見区内で活動する地元の諸機関・団体との協働に基づく地域密着型の授業を行うことにより、学生に対して、実践的で臨場感のある学びを提供する。
- ②「社会力基礎演習」の中ですでに実施している地域課題解決のプログラムと連動し、さらにそれを専門分野（観光まちづくり）へとつなげ、深めていく授業を開設することにより、本学の地域学習の内容を充実させるとともに、その実効性を高める。
- ③履修することによって単位が修得できるだけでなく、学生にも修了認定証が授与され、鶴見区の観光まちづくりの担い手として活動できるようになるため、地域でのボランティア活動やまちづくりインターンシップと一体型のプログラムにもなり、本学の「実効型ビジネス教育」のコンテンツとしてアピールできる。

## (4) 事業の概要

### ①事業全体の概要

鶴見区の観光案内やツアープランの企画・運営、観光によるまちづくりを担える人材を育成するために、鶴見区役所、および区内で活動する市民活動団体（鶴見区文化協会、鶴見歴史の会、鶴見みどころガイドの会）と連携し、本学が全体のコーディネートを担当して「鶴見コンシェルジュ」の養成講座を企画・開催する。養成講座において、あらかじめ定められた要件（3分の2以上に参加）を満たした受講者に対しては、修了認定証を授与する。

養成講座の企画、修了認定証の授与、修了認定者の登録・管理、および認定者への情報提供は、本学、鶴見区役所、鶴見区文化協会、鶴見歴史の会、鶴見みどころガイドの会で構成する「鶴見コンシェルジュ養成講座実行委員会」が行う。委員会の事務局は本学と鶴見区役所が務める。また、養成講座の運営は本学が担当する。

修了認定者は、鶴見区の観光案内やツアープランの企画・運営、観光によるまちづくりに関する業務、その他関連分野のボランティア活動などに携わることができる。さらに、修了認定者に対しては、鶴見区役所や委員会構成団体から観光関連業務やボランティア活動に関する情報を優先的に発信し、認定者が観光およびまちづくり関連の業務や活動に従事できる機会を拡大する。

養成講座の企画・運営には、本学が「まちなかキャンパス」を実施してきたノウハウを活用する。なお、養成講座は「まちなかキャンパス」と同様に学生が授業として履修し、単位を修得できるようにすることで、鶴見の観光まちづくりへの若い世代の関心を高める。さらに、修了認定証を得た学生たちが観光まちづくりの担い手となってくれるよう働きかける。

### ②養成講座の概要

本学が野毛と横浜中華街で実施してきた「まちなかキャンパス」の仕組みを活用する。そして、一般社会人の受講のみでなく学生も単位が修得できるようにし、なおかつ「まちなかキャンパス」と同様に「横浜市内大学間単位互換履修制度」科目とすることで、市内大学の学生たちも広く受講できるようにする。

学生が単位を修得できるようにするため、養成講座は100分（質疑応答を含む）×13コマ（プラス学生のみで本学の教室で行う授業1コマ）で構成する。なお、本学においては授業科目名を「鶴見観光まちづくりの実践」とし、2022年度は秋学期に開講する（2019年度までは春学期に開講していたが、コロナ禍の今後の状況が現時点では見通せないため、鶴見区役所と協議し、2022年度については秋学期開講を予定することとした）。そして、学生たちと社会人が1つの教室で交流しながら学習できる場とする。

具体的なカリキュラムについては、鶴見区役所、および鶴見区文化協会、鶴見歴史の会、鶴見みどころガイドの会と共同で開発する。

本養成講座の運営責任者は本学の佐々が務め、講座のコーディネートと当日の運営にあたる。また、授業として履修する学生の成績評価も佐々が担当する。

### ③実施主体

- ・主催：横浜商科大学、鶴見コンシェルジュ養成講座実行委員会
- ・後援：鶴見区役所
- ・協力：鶴見区文化協会、鶴見歴史の会、鶴見みどころガイドの会

### ④養成講座の受講対象者

- ・本学学生（全学科、2015カリキュラムでは1年次より、2020カリキュラムでは2年次より履修可能）
- ・横浜市内にキャンパスを構える「横浜市内大学間単位互換履修制度」参加大学に通う学部学生
- ・鶴見の観光まちづくりに関心をもつ一般社会人
- ・鶴見のコンシェルジュとして地域のイベントやまちづくり事業に参加したいと考えている学生および社会人

### ⑤講座の募集定員

- ・学生（本学および単位互換大学学生）：20名
- ・一般社会人：30名

### ⑥本学学生履修者の単位の取扱い

- ・2015カリキュラムでは商学部「学部基礎プログラム・専門基礎」の2単位（1年次配当）、2020カリキュラムでは観光マネジメント学科「学科専門科目」の2単位（2年次配当）となる。

### ⑦本学教職員の役割

- ・プロジェクトの企画・運営
- ・カリキュラムのコーディネート
- ・授業の進行・運営
- ・学生履修者の成績評価
- ・社会人受講者の募集・案内・受付
- ・講義会場の設営・片づけ
- ・養成講座修了認定証の授与、修了認定者の管理・ネットワーク化

### ⑧本学学生の役割

- ・授業への参加・単位の修得（2019年度履修者：20名、2018年度履修者：8名。2020年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により休講。2021年度はオンライン講義で実施し、履修者15名）
- ・授業評価
- ・講義会場の設営・片づけの補助
- ・鶴見区の観光関連イベント、まちづくり事業の企画・運営への参加

### ⑨地域貢献協働事業協働事業者（鶴見区役所）の役割

- ・鶴見コンシェルジュ養成講座の後援
- ・大学と共同でのカリキュラム作成
- ・講師の紹介および手配、講師の担当
- ・会場となる施設の手配、無償提供
- ・講座のPR（ポスターの掲示、募集要項の配布）
- ・マスコミ等への情報提供と取材対応
- ・各種講座運営業務の補助

## (5) 実施内容の報告

コロナ禍のため2020年度は中止、21年度はオンライン開催となったが、今年度はコロナ禍以前のように、鶴見駅周辺の施設（今年度は全回、鶴見区役所）を使用して対面形式で実施した。

ただし、感染者数が高止まりしているなどコロナ禍には終息の兆しがなく、依然として不安定な状況が続いていたため、講座を全8回（コロナ禍前は14回）に縮減し、定員を学生・社会人あわせて30名程度以内に限定して開講した。

昨年度は、社会人については公募を取りやめ、本講座の協力者、支援者、および鶴見区役所関係者、鶴見観光交流ネットワークのメンバー企業・団体の方々、それらの方々の直接の紹介者のみに参加を呼び掛けて実施したが、今年度は従来どおりに公募を行った。しかし、定員を学生・社会人あわせて30名程度以内に限定するため、広報の規模は縮小し、社会人の募集要項を従来は300通強発送しているが、今年度は180通程度に絞って発送した。

また、感染が再び急拡大するなど、コロナ禍の状況が悪化した場合にはオンラインへの切り替えや社会人受講の受入れ停止とすることを想定せざるを得なかったため、今年度は「ウィズコロナ・トライアル講座」とし、受講料の徴収は行わなかった。なお、オンラインでのトライアル講座となった昨年度も、受講料は徴収していない。

学生の受講に関しては、野毛地区施設内での対面実施に戻るため、教室定員の制約から履修者を20名以内に制限した。しかし、履修希望者は8名であったため、選抜や抽選は行なわなかった。ちなみに、内訳は4年生が1名、3年生が4名、2年生が3名である。

### ①2022年度「鶴見コンシェルジュ養成講座」プログラム

2022年度の鶴見コンシェルジュ養成講座は、鶴見の沖縄タウンがNHKの連続テレビ小説「ちむどんどん」の舞台となったことを記念し、「『ちむどんどん』に描かれた鶴見の原点」という全体テーマを特別に設けて実施した。そして、「ちむどんどん」に描かれた鶴見の近代史を、「沖縄」、「高度経済成長」、「京浜工業地帯」の3つの切り口から考察する講座とした。

「鶴見コンシェルジュ養成講座」の講義は1回90分で行なったが、学生には毎回、授業時間10分に相当する課題を出し、作成・提出させている。

- ・ 第1回 1月10日（火）18:00～19:30  
京浜工業地帯の形成と鶴見の銭湯～北陸出身者の活動を中心に～  
〔講師〕横浜都市発展記念館 吉田 律人  
※第1回の吉田氏の講義は11月15日の予定であったが、吉田氏が新型コロナウイルスに感染して中止となり、1月10日に繰り下げて実施した。
- ・ 第2回 11月22日（火）18:00～19:30  
高度経済成長期は住民運動の時代でもあった  
〔講師〕横浜市史資料室 羽田 博昭
- ・ 第3回 11月29日（火）18:00～19:30  
私の見た、見ている、見たい鶴見沖縄県人会  
〔講師〕横浜・鶴見沖縄県人会 幹事長 並里 典仁
- ・ 第4回 12月6日（火）18:00～19:30  
鉄道開通・鶴見駅開業150年 日本の近代化を支えた鶴見～農漁村から多文化共生のまちに～  
〔講師〕鶴見歴史の会 齋藤 美枝
- ・ 第5回 12月13日（火）18:00～19:30  
伝統行事やイベントで沖縄と鶴見をつなぐ～ウチナー祭や道じゅねーが目指すこと～  
〔講師〕株式会社おきなわ物産センター 代表取締役 下里 優太
- ・ 第6回 12月17日（土）10:00～12:00（集合時間は9:50）  
「ちむどんどん」に描かれた潮田周辺を散策（街あるきツアー）  
〔集合場所〕鶴見駅東口交番横広場  
〔ガイド〕鶴見みどころガイドの会
- ・ 第7回 12月20日（火）18:00～19:30  
京浜工業地帯の礎を築いた浅野総一郎～臨海部埋立に託した“夢”と“情熱”～  
〔講師〕鶴見歴史の会 酒井 晴雄

- ・第8回 1月17日(火) 18:00~19:30  
記者の目で見えた沖縄本土復帰50年  
〔講師〕神奈川新聞社 統合編集局編成部 田中 大樹

## ②学生対象講義

講師：佐々 徹

- ・10月4日  
イントロダクション授業  
16:50~18:30 (対面・商大131教室)
- ・10月11日  
みんなで商大開学の地・鶴見について調べよう！  
16:50~18:30 (対面・商大312教室)
- ・10月18日  
鶴見区のプロフィール  
16:50~18:30 (対面・商大312教室)  
〔招聘講師〕鶴見区区政推進課 課長 末吉 和弘
- ・11月8日  
都市観光と着地型観光ツアー  
16:50~18:30 (対面・商大312教室)  
〔招聘講師〕秋山 友志
- ・1月22日  
鶴見沖縄県人会とその活動について(横浜商科大学主催公開講演会)  
13:00~14:30 (対面・商大321教室)  
〔招聘講師〕横浜・鶴見沖縄県人会 幹事長 並里 典仁
- ・1月24日  
第13回までのふり返りと学期末課題  
16:50~18:30 (対面・商大312教室)

## ③2022年度「鶴見コンシェルジュ養成講座」社会人受講者数

- ・第1回 1月10日：一般社会人22名
- ・第2回 11月22日：一般社会人19名
- ・第3回 11月29日：一般社会人13名、区役所関係者6名
- ・第4回 12月6日：一般社会人20名、区役所関係者3名
- ・第5回 12月13日：一般社会人12名、区役所関係者5名
- ・第6回 12月17日：一般社会人8名
- ・第7回 12月20日：一般社会人20名、区役所関係者1名
- ・第8回 1月17日：一般社会人21名

以 上